

会  
部  
士  
本  
術  
国  
技  
中

# テーマは循環型社会構築へ

## 産学官との合同セミナー開く

日本技術士会中国本部（大田一夫本部長）は27日、地域産学官と技術士との合同セミナーを岡山市北区の岡山理科大学で開いた。循環型社会の構築に焦点をあて、直面する課題や技術士の役割

などを考えるもので、オンライン受講を含めて約180人が参加した。冒頭、挨拶に立った大田本部長は「本日のテーマは、持続可能な循環型社会の構築に向けた取り組み」。循環型社会とは、

生態系の循環を尊重し、自然に負荷をかけない環境に優しい社会と言われ、その実現はSDGs（持続可能な開発目標）にも大きく関係している。SDGsについては、21部門ある技術士の知恵を

が行われ、講演、パネルディスカッションへ入った。講演では、環太平洋大学の阿部宏史副学長が「岡山市における持続可能な都市づくりの取り組み」を演題に特別講演。岡山理科大学の松浦洋司副学長は基調講演として、持続可能に関連付けた同大学工学部の取り組みを紹介した。

### 会場のもよう



いかすテーマでもあり、中国本部ではこれからも一過性ではなく継続的な取り組みを進めていきたいと考えている。このセミナーを通じて、産学官と技術士の連携への理解が深まり、SDGs達成に技術士が貢献できる場がより一層広がることを念願している」と述べた。

その後、中国本部会員でもある斉藤鉄夫国土交通大臣によるビデオメッセージや、新妻秀規参議院議員、大森雅夫岡山市長らによる来賓挨拶など

パネルディスカッションでは、香川大学創造工学部の磯干千雅子特命准教授がコーディネーターを務めた。パネリストとしては、リプロの岡田謙吾社長、津山工業高等専門学校校総合理工学科の塩田祐久教授、真庭市総合政策部総合政策課未来都市（SDGs）推進室の森田学室長に加え、技術士の河崎弥生氏と楠敏明氏も登壇。それぞれの立場で循環型社会に資する取り組みなどを話題提供した。